



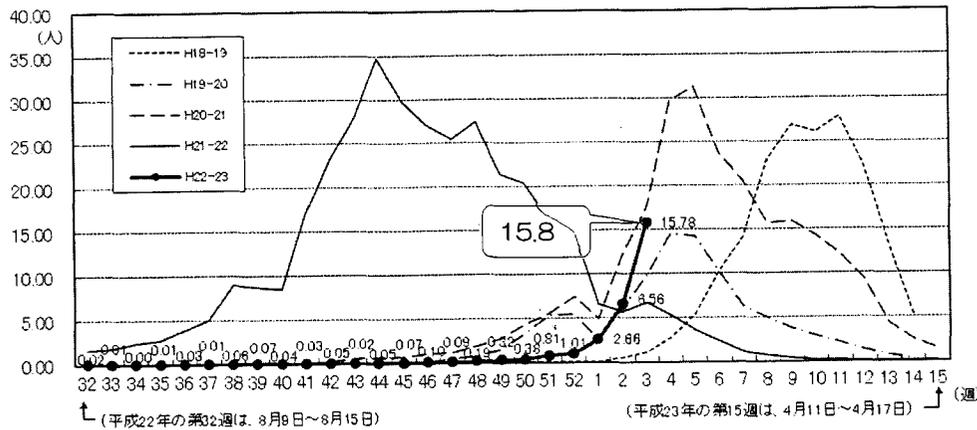
インフルエンザに注意してください! 流行が拡大中です!!

大阪でのインフルエンザ発生状況は、流行の目安である1.0となったのち急激に増加し、定点あたり患者数1.0を超えました。

流行が本格化しており、今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があります。

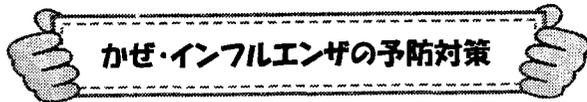
2月1日で学年末考査は終了しますが、「インフルエンザで卒業式に出席できない」ということがないように、感染防止に留意して過ごしてください。

大阪府内のインフルエンザ発生状況(平成23年1月27日現在)



〈最近の傾向〉

- ・患者の半数以上は20代以上の大人が占めています。
- ・昨年12月から、季節性(A香港型)に代わって新型(A/H1N1)の割合が高くなっています。



かぜ・インフルエンザの予防対策

- 手洗いうがいを徹底しましょう**
人混みをできるだけ避け、外出先から帰ったら手洗いうがい徹底しましょう
- せきエチケットを守りましょう**
せきやくしゃみが出る時は、「せきエチケット」を守りましょう
- 早めに受診しましょう**
インフルエンザにかかったかなと思ったら、かかりつけ医など身近な医療機関に電話をし、早めに受診しましょう
- ピークの前ワクチン接種を**
重症化を防ぐ効果が期待できます。接種から2～3週間で効果が表れますので、早めの接種が望まれます。

かぜ・ひきはじめの注意

無理をせず体を休ませ、
こまめに水分を摂りましょう。

早い早い対策が、
早く元気になるためのカギ!
温かくして ゆっくり休もう。

しっかり食べて
栄養をとりましょう。

特に
ビタミンCも
摂りましょう!

室内の温度・湿度にも
気を配りましょう。

湿度は
70%前後

温度は
21~24℃

急な高熱、ひどい頭痛や筋肉・関節の痛み...
こんな症状のときは **インフルエンザかも!**
早めに病院へ行き
治療を受けましょう。

高病原性鳥インフルエンザについて

昨年10月から野鳥や養鶏場などで高病原性鳥インフルエンザの感染が確認されていますが、今年に入ってからも、福島、北海道、宮崎、鹿児島、愛知と全国各地で相次いでいます。

*北海道大学の喜田宏教授(獣医学)によると「全国どこでいつ発生してもおかしくない状況になった」ということです。 (*朝日新聞1/27(朝刊)より)

高病原性鳥インフルエンザとは、強毒性の鳥インフルエンザのことで、主に鳥から鳥へと感染します。

鳥インフルエンザの人への感染は、感染した鳥と接触したり、糞を吸い込むなどして大量のウイルスが体内に入った場合に、まれにあることが知られていますが、通常の生活では感染する可能性きわめて低いと考えられています。

また、鶏卵や鶏肉を食べることによって人に感染することはありません。

高病原性鳥インフルエンザに関する対策について

- 日ごろから手洗い、うがいを習慣づける
- 野鳥には近づかない。近づいた場合には手をきちんと洗い、うがいをする。
- 死んだ野鳥などを発見した場合は、手で触らない。同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡していたら、近くの市町村役場に連絡すること。
- 不必要に野鳥を追い立てたり、つかまえようとしないこと。
- 鳥や動物を飼育している場合は、野鳥と接触しないようにすること。
そのため、放し飼いは行わないようにするとともに、野鳥の侵入や糞尿の落下などを防止するために、飼育施設にトタン板等の屋根を設けたり、ネットに破れがないか点検するなどの適切な措置を講ずること。
また、周囲に穀類等のエサや生ゴミ等野鳥を誘引するものを置かず、清潔を保つこと。